

# 子供も大人も思いっきり運動を楽しむ事を通して、 家族、友達との絆をより一層深めよう！

団体名●スポとも／代表者名●金坂未澗（人間科学部スポーツ学科3年）

## はじめに(背景・目的・目標)

コロナ禍やデジタルデバイスの普及による子供の運動不足やコミュニケーション不足が問題になっている。そこで、学校や家族という枠を超え、地域のスポーツクラブにおける子供同士や、親子間の交流を増やすスポーツイベントを作りたいと考えた。さらに、子供の実態に合わせた運動量の確保、怪我のリスクへの対応など、スポーツ学科生の専門性を活かしたイベントの企画・運営を行い、参加者にとって有意義な活動となることを目指したい。

## 活動内容

前期 .2025.06.29 みんな集まれ！総曲輪運動会

場所：富山市旧総曲輪体育館

参加：約50名(保護者も含む)、学生約20名

内容：こどもスポーツクラブカレッジと連携し年齢問わず、親子同士や子供同士だけでなく、家族間の繋がりを深めてもらう事を目的としたスポーツイベントを企画・運営を行なった。  
(エビカニクス・言うこと反対、やること一緒・障害物リレー・ドッジボール)



ドッジボール（前期）



宝探し/クイズ（後期）

後期 .2025.10.26

シャドウ団から奪われた宝物を取り戻せ！

場所：国立立山青少年自然の家

参加：約35名 学生約20名

内容：こどもスポーツクラブカレッジと提携し、体操教室の合宿に参加し、オリエンテーリング「シャドウ団から奪われた宝物を取り戻せ」を行なった。内容は宿舍の部屋のメンバーと力を合わせながら、山の中に散りばめられたクイズに正解し、いち早くゴールを目指す企画。運営当初は屋外でのイベントを企画していたが

天候や熊出没の影響で急遽屋内で行なった。

(宝探し・モルック・ボッチャ・障害物競走)

所感：いつもと異なる新しい場所で、オリエンテーリングという新しい活動を企画することは、見通しが持ちにくく、想定し切れない事が多く難しかった。

## 成果、結果の考察

[前期]

成果：幼児から小6といった幅広い発達段階の子供達に伝わりやすい説明の仕方や全ての子供が楽しめる活動の工夫

課題：怪我への配慮と安全面の想定・徹底

全ての参加学生が主体性を発揮して参加する事

改善策：使用する道具の安全性のさらなる検討

主体的な行動を促すような言葉かけ

[後期]

成果：臨機応変な対応、クイズの工夫

課題：天候や熊出没等による環境問題への対策

改善策：使用施設についての下調べを念入りに行う  
報・連・相の徹底

## 今後の課題、展望

前期の活動では活動中に転んでしまう児童もいたため、使用する道具や配置をしっかりと議論し、安全性の確保に努めたい。

後期の活動では初めて使用する場所で行なったため活動のイメージが持てず企画が難しかった。また、イベントが予定通り行えない場合を想像し、代案の企画について念入りに話し合うことで、子供たちのイベントへの満足感を維持しきるように努めたい。

来年度は、特別な支援を必要とする子供たちとのイベントも考えているため、必要な支援について事前に学び、企画・運営に勤めたい。